

常なる磐

つねなる いわ

令和2年9月25日(金)号

◇ 校歴を紐解く① 【常磐東小学校 校歌】

体育・運動発表会に向けた競技・演技の練習が始まった。児童が健気に頑張る姿は、見ていて本当に微笑ましい。低学年の児童は自分の体よりも大きい「大玉」を3人で協力して押し転がす。児童は、前方がよく見えないのだろうけれども、大玉を巧みにコントロールし、目標の旗の周りをぐるりと回している。よく見れば、旗を支えている教師がさりげなく支援している。流石だなあと感心する。

さて、児童昇降口前のピロティーに校歌の石碑がある。石碑に刻印された表記が「校歌」ではなく、「常磐東小学校の歌」とあるところが優しく、趣深い。

歌詞の1番の一節には「歌えよ心も はればれと」。児童が歌に親しみ、声高らかに歌唱できるようにとの思いが込められたのではないかと思われる。

石板の刻印によれば、石碑の設立は昭和39年3月。校歌創設にかかわった当時の多くの方の思いと願いが伝わってくるようだ。

一転して、2番の歌詞には力強さがある。

「腕組む影さえ輝いて 常磐東の学び舎に 正しく鍛える身と心」。
身体と心(精神)を愚直に鍛えれば、「表情のない黒い影さえ輝く」という喩えだ。特に気に入っているのは、「鍛える」という表現。「養う」や「培う」、「育てる」といった語彙に比べ、はるかに力強さがある。そして、ここには覚悟がある。

続く3番の歌詞には、こうある。

「日本の明日を担う夢 僕も私も もっている 仰げよ明るい虹の橋」
「夢と希望を忘れずに上を向いて歩いてゆこう、空にかかる虹のように」と未来や将来に向けての励ましで締めくくっている。このように実にいい歌詞なのだ。

資料によれば、本校の校歌(学校の歌)は、昭和37年の創立60周年を機に動き出し、38年1月に制定、周年から3年越しの39年3月に60周年記念式典の目玉として安戸町の旧校舎正面玄関横に石碑が建立されたとある。

昭和39年といえば、東京オリンピックの開催年。まさに日本が一丸となって世界に向けて大きく動き出した時。日本が一番勢いのあった頃だ。

【腕組む影さえ輝いて】【鍛えよ身と心】【日本の明日を担う夢】なるほど。これらの歌詞は五輪とリンクし、当時の時代背景が読み解ける。

【鍛えよ身と心】。児童自らが己を鍛えるための支援が我々に課せられた使命だ。その鍵は、校訓【求めてはげむ】であり、手法は【あたり前のことを あたり前に】と捉えた。【あたり前のことを あたり前にできるように 求めてはげむ】のである。

◆創立 100 周年記念誌【緑陰】より



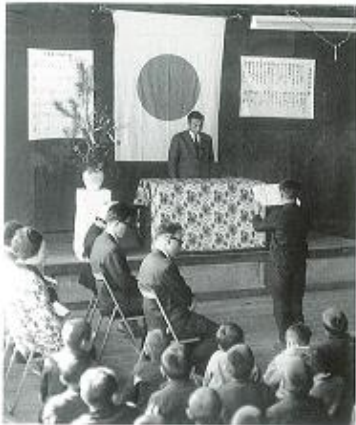
◀ 鼓笛隊編成 (昭和37年)

創立60周年
記念式典挙行

昭和39年3月



原田 市郎 校長
昭和36年4月～昭和40年3月



◀ 校歌誕生 (昭和38年1月28日)



▲ 校歌碑建立 (昭和39年)



◆現在の校歌碑 (裏面)

※児童昇降口前のピロティー (体育館前)

